令和４年度　宝塚市自立支援協議会
専門部会活動結果報告書

●けんり・くらし部会＜地域生活Ｇｒ＞活動結果報告・・・・ 1
＜地域生活Ｇｒ　ワーキング＞活動結果報告・・・・10

●けんり・くらし部会＜地域移行Ｇｒ＞活動結果報告・・・・15

●しごと部会活動結果報告・・・・・・・・・・・・・・・・・22

●こども部会活動結果報告・・・・・・・・・・・・・・・・・30

令和５年（2023 年）３月

宝塚市自立支援協議会

●けんり・くらし部会＜地域生活 Gr＞　活動結果報告

第１回けんり・くらし部会＜地域生活Ｇｒ＞会議議事録	
日時・場所	令和　4 年 9 月 6 日（火）14：00～16：00 総合福祉センター２階 201・202 号室
出欠者	出席者 9 名
議題	内容（決定事項等について）
1.自己紹介	
2.地域とのつながりについて	・活発な地域では、登校が出来ない子どもに、地域の人がサポートをしている。 →まちづくり協議会や民生委員の方の協力が必要。 ・参加の意識が大切。外に出ていくことで知ってもらえる。 話をすることで視野が広がる。 →安心、安全ならば出かけていける。 ・スポーツに関しては、パラスポーツなど周知はされている。 →誰でも参加可能だが、限られた人しか参加がない。 ・皆でつながれる場所、つどえる場所。 （1）福祉だけではなく、多様な人のつどいの場 （2）障碍（がい）者施設のアンテナショップ （3）引きこもりの人が手伝える、就労体験の場 →総合福祉センター1F『みんなのかふぇ　ひまわり』オープン。 →かふぇひまわりに携わっている部会員より、かふぇひまわりの資料配布ならびに活動の報告。 現在、活動もしているが、ひまわりのことを知ってもらう周知活動もしている。 ・精神障碍（がい）のことを知ってもらいたい。 →宝塚家族会として、民生委員の定例会に参加。 研修の案内や体験談を話すことが出来て、つながりがもてた。 ・コロナ禍でかかりつけ医がクローズアップされている。 →かかりつけ医に電話で相談をして、処方箋で済ますことが出来てありがたかった。しかし、医療的ケアが必要な人の場合、自分の障碍（がい）についての専門医はいるが、体調面のかかりつけ医がいない。 ⇒かかりつけ医をもてれば、地域ともつながれる。 ⇒かかりつけ医にどこを担ってもらう、どこから出来るか等、一緒

	に考えていければと思う。 ・学校では教育委員会は医療的ケア児のガイドラインを作る会議をしている。しかし、児のみで者になった場合はどうなるのか。また、学校や児童発達支援センターの看護師の定着率も低い。 ・医療的ケア児はなるべく保護者がつきっきりで介護しないようにしている。しかし、者になると、保護者が対応する機会も増える。 →余暇にもっと選択肢があればと思う。 ・精神障碍（がい）の人の訪問看護は、医療面のケアのみではなく、来てもらって話をするという安心感にも繋がっている。 ・まちづくり協議会への働きかけについては、担当課に伝えている。しかし、会議では、高齢者の人の話は出ても、障碍（がい）のある人の話は出てこない。 →障碍（がい）福祉課より、計画に書いていて進んでいないことは意識付けしてきてほしいことを担当課へ伝えている。

第２回　けんり・くらし部会＜地域生活Ｇｒ＞会議議事録	
日時・場所	令和４年10月28日（火）14：00～16：00 総合福祉センター２階　障害者福祉センター会議室
出欠者	出席者９名
議題	内容（決定事項等について）
1.自立支援協議会専門部会の編成について	○基幹相談支援センターより、部会再編案について説明。 ・令和５年度から、けんり・くらし部会を２つに分け、地域生活グループをくらし部会、地域移行グループをけんり部会に格上げを行う説明と提案。 ⇒委員より意見や質問などはなく、了承を得る。
2.これまでの議論の振り返りと今後について	○『かかりつけ医の確保と活用』『まちづくり協議会への働きかけ』に注目し、できることを取り組んでいく。 ○【かかりつけ医・通院の現状】 ・大きな施設（通所・施設事業所）の利用者は定期健診をしているが小さな事業所は行っていないところが多い。 →ケースバイケースとなるが、開業医で診察できるところは開業医に任せている。 ・難病の方が保健所に問い合わせをする内容は、かかりつけ医よりもレスパイト先が多い。 ・子どもの時は近くの小児科で見てもらえるが、18歳以上となるとかかりつけ医がいなくて困る。また、大人になると、病院へ連れて行く

	のが大変。 〇事業所と医療機関との連携について ・事業所を利用する際に、かかりつけ医を記載することが多いが、実際、かかりつけ医と事業所が繋がっているのか？ →主たる障碍（がい）以外の場合は事業所の産業医が対応することが多いが、主たる障碍（がい）の場合は、専門の主治医と連携することが多い。 なお、施設や事業所を利用する際に、事業所は利用者と医療機関との連携することへの同意書をもらっているのか？ →保健所であっても、本人の同意がないと、基本的に病院から情報を教えてもらえない。 ・病院（医療）は本人の同意を必須としている。事業所（福祉）はそのことをどの程度理解し、対処しているのかを確認する必要がある。 ・個人情報の壁がある。実際に支障があるのか？保健所でも、医療機関に確認するが、本人の同意がないと教えてくれない。きちんと機能しないといけない。 ⇒事業所に対しても、参考になると思う。活用方法が広がる。 障碍（がい）の当事者や家族、事業所にも利用できるものになりそう。情報があれば、事務局へ情報提供を依頼。 〇【便利なサービス】 ・往診と訪問診療サービス通院には、介護タクシーを利用する方が多いが、往診で対応していることもある。 ・訪問診療につなぐこともある。なお、訪問診療はだれでも使えるが、病院へ行けないなどの根拠が必要。 ※訪問診療と往診の違い：訪問診療は定期的に診察。往診はスポットでの対応。 ★往診できる医療機関の検索の仕方（一例） ・宝塚市医師会（在宅医療のページから入る）の HP（地区、時間、往診の有無、車いすの対応など）に検索システムがある。 →訪問診療や往診は高齢者分野から発展してきた経緯がある。 ・便利なサービスがあれば、それを伝えていくことが大切。口コミだけでは弱い。 ・かかりつけ医の必要性についても予防の面で効果ができている。自殺予防も入っている。日々の状況の変化が予防につながる。様々な使い方ができると思う。 〇まちづくり協議会の働きかけについて ・まちづくり協議会計画の中に、障碍（がい）への理解を深めていく

	ことが記載されているが、具体的に議論がされていない。 ・障碍（がい）の理解への取り組みについては、地区によって差があるため、興味がある地域から始めるのが良い。防災をするほうが良いと思う。 ○【まち協との連携の中でどういうメリットがあるのか】 ・自分の住む地域で安心、安全、豊かさを感じられることが大切。そのためには、地域で住みやすく、まち協や民生委員が理解をしていただくことが必要だと思う。 ・その人の人格を尊重し、誰しもが助けたり、助け合えるそういう地域が良い。人は必要とされることが必要。民生委員やその他、地域住民とのつながりが必要と思う。 ・障碍（がい）理解を深めるために、放課後等デイサービスのイベントにまちづくり協議会の方を招待している事例がある。そもそも、まちつくり協議会が、障碍（がい）のサービス事業所がどこにあるか知っているか、知っていないのかでも全然意識は変わると思う。 ・以前、すみれ隊の講習をしたが、今は、母の話（子育て）を教えてほしいなどの意識が変わってきている。 →存在の認識があって、意識が向く。知ってもらうことを前面に押すのではなく、情報提供をしていくことが必要。この地区では、こういう取り組みがあるとか、行ったなどの情報を市民協働推進課にまとめてもらうのもよい。 ・事業計画で掲げた内容に取り組めていないところもある。障碍（がい）理解への取り組みとして、「こういうことができる」と提案することや、　「住みやすいまちって、どういうこと」などを細かくあげていくとより具体的になると思う。 ・コミュニケーション講座を開き、店舗でコミュニケーションボードを利用していく流れを作っている。 →そもそもきっかけは実例があったから・・実例を知らないといけない。具体的に理解してもらえる機会を作る。私たちが見えていることを挙げてもらい、集約する。 ・基幹相談支援センターとしては、市民協働推進課に、まちづくり協議会が何をしてもらうと興味を持ってもらえるのか、ニーズが何かを調べてもらうように依頼。年内に目標に取り組んでいく。

第３回けんり・くらし部会＜地域生活Ｇｒ＞会議議事録	
日時・場所	令和４年12月９日（金）14：00～16：00 総合福祉センター3階　特別会議室
出欠者	出席者９名
議題	内容（決定事項等について）
1.基幹センターより説明・紹介	第１回　自立支援協議会の全体会報告 （宝塚市障碍（がい）福祉課　基幹相談支援センターより） 議事録に沿って説明。 【委員より意見】 〇大事な会議であったが、会議時間が短かったのは残念。 審議する場ではなく、一方的な報告で終わっている。そのため、何を目的にやっているのかわからない。方向性を決めていかないといけない。 もっと福祉基金の説明が欲しかった。 福祉基金については、実施計画を立てて説明をしてほしい。
2.地域とのつながりについて	前回の振り返りを行う。 （1）　医療機関（かかりつけ医など） 〇事業所が医療機関に情報提供する場合、同意を得ているのか実態確認について 【委員より情報提供】 かかりつけ医の記載について確認したところ、就労支援、地域活動支援センターは、知的障碍（がい）と精神障碍（がい）の方が多く、心療内科がメインである。心療内科の相談員とのやり取りをすることもある。 →かかりつけ医については、今国で議論しているため、様子を見たいと思う。 【訪問診療と往診について】 委員より情報提供。現在、クリニックの往診を利用している。往診は、高齢者のサービスが中心であったが、最近、障碍（がい）分野でも利用ができるようになった。（特別支援学校の方も使い始めている） このクリニックは、PCRやワクチン接種などを行うだけでなく、点滴、採血も行ってくれる。また、主治医（尼崎市）とクリニックが連携を取り、緊急時には、主治医も来てくれる。大変助かっているとのことであった。 ちなみにこの場合、かかりつけ医は両方がかかりつけ医となる。 →このクリニックは西宮の診療所のため、宝塚市でも同じような診療所があるかなど、医療分野に詳しい委員に出席時に確認したい。 かかりつけ医の認識を理解することが必要。（使いやすいものを考えて

	いく必要がある） 家族がこういった情報を得るのは、ご家族同士の情報交換（横のつながり）であるが、繋がりがないところには、障碍（がい）福祉課（窓口や更新時）や相談員などが情報提供する仕組みがあれば良いと思う。 または、各相談支援事業所でも情報集約し、情報提供してほしい。 →相談支援事業所では言えるかもしれないが、障碍（がい）福祉課としては、特定の医療機関を紹介することはできない。 医療情報を提供することの難しさなどがあるならば、そのツールを作るのもよいかなと思う。 往診などの利用しやすいサービスを周知していきたいが、各種事情もあると考えられるため、慎重に進める必要がある。 （2）まちづくり協議会への働きかけ 〇まち協との連携であるが、今まで、何度も部会の中で特に障碍（がい）の理解を深めようとしても、結果的に無関心層に周知がいかないとの話があったと思う。前回の部会では、まちづくり計画を見てもらった。その中で地区によって、偏りがあることを共有した。 〇障碍（がい）者家族としては、まち協（地域住民）に望むことは、ほかの人と同じようにいろいろな事に気兼ねすることなく、参加できるようになればと思う。（日ごろから歩いていたら、声をかけてほしい、近くに祭りがあれば、一緒に行こうと誘ってくれるなど・・） 〇まちづくり協議会のお話を聞くのも一つと良いと思う。 候補として、宝塚第一小学校区まちづくり協議会の会長を挙げる。前回の自立支援協議会の全体会にて、委員と出席した会長が地域生活グループの報告時に興味を持ってくれ、終わった後に声をかけてくれた。※長尾地区まちづくり協議会などの候補も上がった。 →次回会長に参画してもらうように依頼。 〇市民協働推進課はまちづくり計画の進捗管理もしているため、積極的な参加が期待できる。市民協働推進課の声掛けを事務局から行う。 〇多くのまちづくり協議会では防災に関する取組を行っている。1 月 29 日に地域福祉課がイベントを行う予定であり、各当事者団体にも声がかかっている。 防災に関連付けて、いざというときのために「防災計画」や「避難計画」など共に考えていくことが大切である。 〇民生児童委員と自治会、まちづくり協議会との関わりについて 民生児童委員と自治会、まちづくり協議会の関係性がうまいっていると障碍（がい）者理解が深まると思うが、うまくいかないと障碍（がい）

	者理解が進まない。うまくいかない理由の一つとして、個人情報が壁になっているという話を聞く。相談支援事業所が、自治会やまちづくり協議会などの地域住民とかかわることはあるのか？ →民生児童委員はじめ、いろいろな関係機関からつながることは多い。 〇個人情報の問題は 20 年前から言われているが、本人が障碍（がい）をオープンにしているのに、受け取る側の判断で、「個人情報については語れないと言って、必要なところに伝わらないのはおかしいと思う。専門機関だけがいつも関わらないといけない状態では、「住民相互の支えあい」など実現できない。 少しでも参加できることを見出すことが必要であり、個人情報の大切さをきちんと共有しておくことも必要だと思う。 次回部会 宝塚第一小学校区まちづくり協議会の会長に来てもらい、まち協の取り組みなどのお話を聞く予定。

第 4 回けんり・くらし部会＜地域生活Ｇｒ＞会議議事録	
日時・場所	令和 5 年 2 月 24 日（金）14：00～16：00 総合福祉センター　3 階特別会議室
出欠者	出席者数 8 名
議題	内容（決定事項等について）
1.前回の振り返り	
2.地域とのつながりについて	宝塚第一小学校まちづくり協議会の活動について 講師：宝塚第一小学校区まちづくり協議会　会長　山本敏晴氏 第一小まち協は住民が住み続けたいまちづくりをテーマに (1)次世代をはぐくむ（2）地域をつなぐ（3）思いをはこぶ をモットーに活動している。 第一小学校まちづくり協議会の役員は 15 名おり、医療・福祉関係者や本人・家族に障碍（がい）のある人、民生児童委員などで構成されている。コンプライアンスや人権・差別への意識が高いため、障碍（がい）であることをカミングアウトしてくれるのが特徴である。 まちづくり協議会のミッションは課題解決、地域融和である。 地域の活動として、UGAN 祭りなどのイベントがあり、障碍（がい）当事者が主体的に参加し、活動している。 また、地域福祉ネットワーク（地域課題を考える会）や地域防災委員会など

	では、自分の生活の課題を我が事として話し合うため、仲良くなれる。つまり、まちづくりを行う上で大切なことは本音でないとできない。 そして、みんな平等であること、カミングアウトできる社会も必要である。 情報の持っている委員とネットワークを持つことも心掛けている。
3.質疑応答	Q1.地域に障碍（がい）であることをカミングアウトしてくれる人は良いが、カミングアウトできない人はどう接したら良いか？ また、無関心層に興味を持ってもらうためにはどうしたら良いか。 ⇒障碍（がい）については、役員の中には福祉業界の関係者がおり、その人の知識やノウハウを活用しているが、大事なのは、障碍（がい）のある方だからということではなく、できることをやっていくことである。また無関心層については、UGAN 祭りなどのだれでも参加できる活動を通して、ごく自然に関わってもらいながら、わかってもらうしかないと考えている。 Q2.見守りや防災への取り組みについて、教えてほしい。 ⇒まち協では、自治会ごとのラインで繋がっている。認知症の方が徘徊された時や発達障碍（がい）の方が道に迷うなど困った時に、気づいた方が関係機関に連絡し、対応したことがある。カミングアウトしてくれると地域で見守る体制ができる。最近、特にその意識が高まっていると思う。 実際、有事の時第一小学校が避難場所となっているが、第一小学校区は 22,000 人（9300 世帯）と多いため、全員入ることが出来ない。 震災後の建物については地震に強い（新しい建築基準法）ため、地域住民には自宅避難を奨励している。また、災害から 3 日間は自助になる可能性が高いため、その分の備蓄も勧めている。 　顔の見える関係がないといざ困った時に助ける側も対応に困るため、お互いに知ってもらうことが必要である。また、避難する場合も、まちをよく知っていないと対応できないこともあるため、実際に歩いて確認することも必要である。 委員：有事の時に、障碍（がい）のある方は福祉避難所があるが、一旦指定避難所に行く必要がある。その指定避難所に行けないときもある。直接福祉避難所に行ければと思う。第一まち協の活動が他にも広がればと思う。

4.今後の展開について	【地域と医師会との連携】 委員：医師会としては、障碍（がい）の分野との連携はあまりないと感じている。高齢者の地域包括支援センターと連携することが多い。 障碍（がい）のある方が高齢となると関わることもある。障碍（がい）のある方と顔の見える関係でないと緊急時対応は難しいと思う。 往診や訪問診療は実施しているところも多い。リストがあるため、医師会に聞いてもらえれば教えてくれる。また、近所の診療所でも教えてくれる。 訪問診療で、生まれた時から高次脳機能障碍（がい）、胃ろうの方の対応をしている。訪問診療でなくても、かかりたい方がいれば直接医療機関に聞いてもらえればと思う。 重度心身障碍（がい）者の場合は日頃から先生と話し、医療機関とも顔の見える関係があると関わりやすい。ハードルが低くなると思う。 　残念ながら、病院のハードルが高く、相談しにくいという声を聴く。病院側のハードルを低くし、より良く付き合うためには顔の見える関係が必要である。

【今後の方向性について】

・医療（かかりつけ医、連携）について

往診や訪問診療を受けたい人には、宝塚市医師会のホームページにある「医療機関検索」を利用して実施機関へのアクセスを勧める。訪問診療の利用で安心につながったとの声があることから、障碍（がい）者への訪問診療を周知していく。医師会と地域包括支援センターの定期的な連携の取り組みについて、障碍（がい）分野での必要性等を検討する。

・まちづくり協議会との連携について

委員：今回のまちづくり協議会の障碍（がい）者理解についての啓発は様々であるが、防災に関する内容は分かりやすいと思う。

以前、障碍（がい）のある方に、地域住民が協力して、避難訓練を行ったまちづくり協議会があると聞いた。そこのまちづくり協議会にも聞いてみるのも良いかなと思う。避難訓練やまち歩きに障碍（がい）のある方が参加して体験したことを伝えて、共に考えることができる。

●＜地域生活 Gr　ワーキング＞　活動結果報告

第１回けんり・くらし部会＜地域生活 Gr ワーキング＞会議議事録	
会議名	令和４年 11 月 16 日（金）14：00～16：00 総合福祉センター２階　障害者福祉センター会議室
出欠者	出席者９名
議題	内容（決定事項等について）
1.自己紹介	地域移行に関する小冊子の配布の効果と今後の活用方法について （1）小冊子配布状況（事務局より） ・心療内科（45 カ所）、日中サービス提供事業所（37 カ所）、特定相談支援事業所（宝塚・伊丹）地域包括支援センター（7 カ所）、宝塚市の訪問看護、保健所、市立病院などに配布済み 現時点で約 400 部を配布済み （2）配布したあとの効果（各事業所の意見） 〇利用者の反応 ・リカバリーストーリーを見て自身でもできる事をやろうと勇気や希望を見出す方もいた。 ・利用者の中には入退院を繰り返す方もいるが、退院時に小冊子が参考になった。 ・小冊子をコピーして持って帰る人や休憩時間に読む人もいる。 〇支援員の反応 ・利用者に対して説明する際に小冊子をコピーして代用し使用している。 ・生活の流れがフローチャートで見やすい。社会資源がまとまっているため、利用者からの問い合わせがあった際に、利用することもある。 ・リカバリーストーリーを読み、振り返りもしている。 ・相談できるところを知らなかったという意見もある。 〇小冊子を病院に持って行きたいが、コロナ禍で入ることも困難な状況で、どのように病院にアプローチすればよいか ⇒三田市では兵庫県の地域移行推進事業で近隣の病院へアプローチしている。ある病院で特定の患者と面談したり、退院後のフォローとしてピアサポーターの紹介。令和３年度からピアサポート通信や DVD の作成。各病院にピアサポーターが持って行き、利用者に直接渡せない場合は、相談員等に渡し、必要であれば連絡してもらうように声掛けも行

	っている。 （3）小冊子の活用の仕方について ・訪問系サービス事業としては、利用者に対して、アプローチが難しい。 ・家族会のほっこり会に置くのもよい。 ・特に日中活動していない方、通院していない方に対しては、委託相談一覧は分かりやすい 【今後の課題】 〇つなぎ目がうまくつながっていない場合がある。 病院から地域へ、そして、地域から外に出るためのハードルが高い。病院から相談員へ、相談員からサービス事業所にしっかりと固めたうえで事業所へつながると利用者並びにその支援者は安心できる。そのため、病院側に委託相談の存在と機能、役割を説明する必要がある。 また、退院後の訪問看護との連携について、訪問看護からサービスを提案するが、なかなか繋がらない。病院だけでなく、訪問看護ステーションにも説明が必要。入院患者だけでなく、地域で生活されている方にも説明が必要。 →退院時に病院と委託相談が連携できればいい。 〇小冊子への啓発活動について ・小冊子を配布するだけでは効果が薄いため、直接利用者に対して、説明する必要がある。 ・ピアサポーターと各委託相談支援事業所が病院へ直接訪問する。また、地域移行グループ又は地域生活グループが中心となり、講演会を開催し、小冊子のＰＲを行っていくことも必要との意見が出る。 （4）今後の小冊子の活用について ・活用を進め、必要に応じて小冊子を印刷する。内容の変更についてはケースバイケース対応。 ・ピアサポーターの活用、病院や訪看への周知が必要。 ４．その他

第２回　けんり・くらし部会＜地域生活 Gr ワーキング＞会議議事録	
日時・場所	令和５年１月 20 日（金）14：00～16：00 総合福祉センター２階　障害者福祉センター会議室
出欠者	出席者 10 名
議題	内容（決定事項等について）
1.自己紹介 2.これからの課題（ワーキングから部会に提案したいこと	【小冊子の配布について】 ・事務局より、残りの 400 部のうち 275 部を民生児童委員に配布したいことを提案。2 月 13 日民生委員の全体研修会があり、宝塚家族会の方が小冊子の紹介並びに説明を予定している。そのため、参加される民生児童委員に配布し、周知を図りたい。⇒了承。 西宮市の特定相談支援事業所に配布し、800 部を配布。 【病院との連携について】 　精神科病院では、デイケアに設置していたが、利用者が手にとることも少ない。入院されている方が小冊子を見てもらう＝地域で生活をすることをイメージして（興味をもって）もらうためにはどうしたら良いか？ 　周知の方法について、病院（PSW）からだけではなく、地域の関係機関からアプローチした方が良いのか？また、地域の関係機関が入院患者の方にアプローチする場合、個別ケースでの対応が良いか？それとも特定の利用者に限定せず、集団でアプローチした方が良いか？ 病院側から繋ぎ先がなく、困ったことはないかなどの質問が挙がる。 ⇒病院側としては、相談先や繋ぎ先がなくて困ることはない。 　地域との関係機関との連携については、退院時の個別ケースで関わることが多くなっている。 　なお、コロナ禍もあり、集団（入院患者全体）への関わりは少ない。 ・集団へのアプローチのメリットとして、ある病院では、プログラムをきっかけに入院患者と支援員との信頼関係ができ、地域移行につながった。加えて、その人をきっかけに周りの入院患者も地域移行したいとの意欲につながったケースもある。 ⇒効果については、ケースバイケースであること、病院側の運営の仕方もあるため、無理強いはできず、うまく連携が取れればと思う。病院との信頼関係（関係機関とつながったことで、有益であるという実績）を構築していくことも必要である。

	○地域の現状 ・病院の退院後の支援としては、デイサービス等のつながりがあれば関係性は続くが、退院の基準のすり合わせが病院側と支援者側で必要。 ・退院後に、訪問看護を病院や家族に言われて勧められる方も多く、本人が拒否される方もいる。事業所側から No ということはない。 ・病院側としては、医療・服薬継続治療を優先するため、訪問看護の指示を入れる場合が多い。本人がどこまで納得しているか課題もあり、病院内でも確認するが、退院してから拒否される方もいる。 ・訪問看護だけでなく、保健所や委託相談と繋がることで地域生活が安定されている方もいる。 ・退院時に訪問看護を入れるメリットや必要性は患者には説明しているのか。 ⇒病院側としても、説明してはいるがその上で拒否される方もいる。 ・基幹より、来月に訪問看護ステーション連絡会で説明予定。訪問看護が切れてしまった方へ、地域との繋がりについて PR する。 ・訪問看護としても、地域と繋がりがない方に対して委託相談支援事業所があることで、相談ができるのは助かる。 ・委託相談としても、信頼関係のある方から紹介されると介入しやすい。病院のワーカーや訪問看護、民生委員等からの相談も増えてきている。 ○家族からの意見 ・何十年も入院している方が、退院してすぐに関係性のない方に対して相談は難しい。入院中に地域サービスを利用し、信頼関係を構築してからだと地域移行しやすいのではないか。いつも相談できるわけではなく、何かあったときしかできないと思われる方も多く、ピアカウンセラーも必要。 ○グループホームからの意見 ・グループホームに入居している方は、特定相談や日中活動等で他の支援者と連携を取り合って支援している。退院されてからのケアについて、病院側との連携も必要。地域でケアできること、医師からの専門的な意見も聞きたい。地域医療とも方向性を統一したい思いもあり、日ごろからの関係性の構築も必要。 ○病院と地域との距離感 ・退院前にカンファレンスを実施したいが、既に退院されているケースもあり、困惑する場合がある。 ⇒病院やケースバイケースにもよるが、病院側としても治療が終われば退院となるため、戻る地域へは連絡調整をするのが基本。

	<u>地域移行をする上では、病院と地域の関係機関との連携が重要となる</u> 【ワーキングから部会に提案したいこと】 ・精神領域で話したいことを部会の中にどのように落とし込んでいくのか。議論の重要性が再確認でき、部会とは別枠で設けるのもあり。 ・ワーキングでは地域移行の話がメインだったが、くらし部会でどこまで地域移行や精神領域の話ができるか、どういう方向になるか不安。 ・小冊子が出来て終了ではなく、どう活用していくのか。引き続き検討していき、丁寧に啓発を行ってほしい。 【最後に】 基幹相談支援センターより、ワーキングチームの成果物として小冊子が完成並びに配布したことにより、一旦このワーキングチームは解散となる。来年度の部会にて、引き続き、課題を検討し、必要があれば、再度ワーキングチームを再編していく。

●けんり・くらし部会＜地域移行 Gr＞　活動結果報告

第１回けんり・くらし部会＜地域移行Ｇｒ＞　会議議事録	
日時・場所	令和 4 年 7 月 19 日（火）13：30～15：30 宝塚市立中央公民館　208 学習室
出欠者	出席者 12 名　欠席者 4 名
議題	内容（決定事項等について）
1. 常任委員紹介	○部会長、副部会長承認。 ○各委員の自己紹介（所属、名前）
2. 令和 3 年度自立支援協議会全体会の報告について	○基幹相談支援センターより説明。全体会資料及び組織図参照。
3. 昨年度の振り返りと、地域移行を考える会報告	○事務局より説明。全体会資料 19 ページから 30 ページ参照。 ・部会長による「意思決定支援について～地域移行支援を行うために必要なこと～」の講義。 ・精神科病院に入院されている方への取り組みについて、他市及び宝塚市の取り組みを知る。 ・「ほっとたからづか～こころの病を経験したら～」の活用法について検討。 ・地域移行を考える会の報告。 ・次年度に向け、協議内容検討。考える会からの課題抽出の一案が出る。
4. 今年度の取り組みについて	○委員より、今年度の協議テーマについて意見を出し合う。 ・地域移行はそもそも進んでいるのか？進んでいないのか？ ・コロナで地域移行は進んでいないし、難しい状況。退院したいという声が上がらないとアプローチしづらい状況。また、病院は経営の問題もあるので、理念だけでは動かないものでもある。 ・記憶違いかもしれないが、以前国の施策で精神科病院に地域移行専門の相談員が置かれたと聞いたが、どうなっているのか？ ・差別や偏見、啓蒙活動も必要になるのでは？ ・本当に重度で退院できない人はごく一部、すごく少ないのではないか？ほとんどの人が地域に出て暮らせるはず。 ・障害者権利条約　パラレルレポート 19 条に地域移行の課題の記述有。これを勉強するのはどうか？

	・病院がトントンと肩たたきさえしてくれれば退院できる人はたくさんいるのでは？そのツールとして、地域生活 Gr のワーキングで作成した「ほっと♫　たからづか」を活用することも一つ。 ・警察としても地域の相談支援窓口へもっと情報提供もできると感じた。 ・これまで地域で暮らしていた身体障碍（がい）のある方が、介護保険移行後の生活について不安を感じ施設入所を希望されたり、知的障碍（がい）のある方が高齢化、重度化、機能低下などの理由により在宅での生活等が難しくなり入所したいという相談も増えている。 ・地域で生活していた方が入院した場合の計画相談は途切れるのか？また、その場合相談支援から本人に会いたいとなった時に会うことはできるのか。 ※挙げられた意見も考慮しつつ、今年度の協議テーマについては事務局及び三役で協議することとする。
5.その他	

第２回けんり・くらし部会＜地域移行Ｇｒ＞　会議議事録	
日時・場所	令和 4 年 9 月 26 日（月）13：30～15：00・宝塚市役所　2-4 会議室
出欠者	出席者 11 名　欠席者 5 名
議題	内容（決定事項等について）
1.今後のけんり・くらし部会について	○基幹相談支援センターより、部会再編案について説明。 「障害福祉サービス及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本指針」及び「宝塚市第 5 次障碍（がい）者施策長期推進計画」から再編を検討した経緯を説明。「けんり・くらし部会　地域生活グループ」を「くらし部会」に、「けんり・くらし部会　地域移行グループ」を「けんり部会」とし、他の部会と横並びの関係にする。「けんり部会」では、今まで協議してきた地域移行だけでなく、意思決定支援や成年後見制度の利用等、権利擁護の視点で幅広く議論展開していくことができればと考えている。 ○質疑応答 ・再編後の委員構成は変わるのか？⇒権利擁護関係の委員も加えたものになる可能性はあるが、現時点では未定。今後検討することとなる。
2.地域移行を考える会報告	○事務局より報告 令和 2 年 10 月に地域移行を考える会を発足。当初は、任意入院で長期入院となっている方の「声をひろいあげる」ことを目的とし、精神科病院への訪問、不特定多数の方に会えるよう病棟プログラムに参加することを目指していた。しかし、コロナ禍となったことで精神科病院への訪問そのものが難しくなり、病棟への出入りは不可となった。その為、今できうるこ

	とを改めて考えることとし、一例として以下の案が挙がった。 ・病院から対象者を挙げてもらう仕組み ⇒西宮市や尼崎市のように、精神科病院から対象者を挙げていただき個別支援を行う方法。個別支援であれば、オンライン面会等病院が可と認める方法で対象者に出会い、退院支援を行うことができる。実際にどのような方を対象者とするのか、どのように受け入れていくのか等検討は必要だが、保健所から病院の橋渡しについては協力したいとの声がある。 〇質疑応答、意見等。 ・保健所との連携は進んでいきそうか？⇒一緒に考えていくことはできると感じている。 ・挙がってきた対象者について誰が話すのかはとても大切。ピアサポーターだと初対面でも心が緩むのではとも思うし、コロナ禍で難しいことは承知だがどこで話をするのかも大切。丁寧に話を聞き取ってもらえたらと感じる。 ・挙がってきた声は相談支援の７つの地区割にそって受けていくのか？⇒具体的にどのように受けるのかは協議が必要だが、基本的に地区割で受ける可能性はある。ただ、宝塚方式としてどこか１か所が担って終わりではなく、皆で考える、支援していく形を検討したい。 ・本人が退院、退所したいと思った時に家族の意向は影響あるのか？⇒家族と一緒に暮らすのか暮らさないのかでも変わるし、今までの出来事に対しての家族の意向は一定聞くことにはなる。一番は、本人がどうしたいのかという思いを聴きながらとなる。
3.その他	〇宝塚家族会より研修案内 阪神地区精神保健福祉研修会開催の案内 日時：令和４年 11 月 10 日（木）12：45～16：10 場所：三田市　まちづくり協働センター6 階多目的ホール テーマ：－地域共生社会を目指して－　精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて　『地域共生社会において家族の立場でできること』 〇今後の部会で検討したい議題について 「けんり」という内容で話ができればとは思うが、意思決定支援や成年後見制度以外にも虐待・差別・触法等様々なテーマが考えられる。委員が日頃業務遂行等で感じる「あれ？」「これってもしかして…」を出し合うことも一つ。また、一つのテーマで協議をしていくだけでなく、2 時間ある中で２つ３つと協議することもできるかと感じる。次回以降も含め、今後意見を出し合うことができればと考える。

第３回けんり・くらし部会＜地域移行Ｇｒ＞　会議議事録	
日時・場所	令和４年 12 月６日（火）13：30～15：20・宝塚市役所　2-3 会議室
出欠者	出席者９名　欠席者７名
議題	内容（決定事項等について）
1.全体会の報告	○基幹相談支援センターより報告。 令和４年 11 月４日開催の宝塚市自立支援協議会 全体会について、議事録を基に報告。 ○質疑・意見等。 無し。
2.地域移行を考える会報告	○事務局より報告。 宝塚健康福祉事務所より、三田市の自立支援協議会に参加する中で、西宮市や尼崎市以外の市とも繋がりながら、地域移行の取り組みを考えていきたい病院があったとの共有があった。考える会で協議し、まずは宝塚市として考える会の取り組みがあることを伝えるとともに、病院の思いを知る機会として令和４年 12 月５日に病院を訪問した(考える会メンバー(委託相談支援事業所)から９名が参加)。病院相談員より、病院での取り組みや宝塚市に住民票を置く１年以上の入院者数を聞くことができた。退院に向けた意欲喚起の課題、そこに至るまでの課題がある中で、患者本人の拒否がなければ個別アプローチは可能との返答があり、今後連携した動きを検討することとなった。 なお、今回の訪問の数日前には基幹相談支援センターが他機関との連携の動きとして病院を訪問し、宝塚市の相談支援体制について説明。病院の相談員から、宝塚市では７つの地区それぞれに相談窓口がはっきりしていることへの分かりやすさの評価もあった。 ○質疑・意見等。 ・考える会に宝塚健康福祉事務所が加わったことで、病院からの情報が得られ、考える会の新たな展開に繋がった。 ・退院の意欲喚起を考えた時、地域の身近な支援者として民生委員がいることを伝え、連携していくことも大事になってくると思われる。 ・民生委員の中には地域移行を知っている人、考えた事がある人の方が少ないかもしれない。福祉部会の中で研修する機会を持つことも一つ。 ・地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助などの福祉サービスをうまく活用することでご本人が少しでも安心して暮らすことに繋がればよい。また、フォーマル・インフォーマルな社会資源をうまく活用しながら支援展開ができればよい。
3.これまで	○部会再編となっても継続の協議テーマではあるが、「地域移行グループ」

の地域移行グループの振返り	として地域移行に特化した協議は今年度で終了となるため、振返りの機会を持つ。 ・「しょうがない…」と諦めていたことも、部会の場で提起すること、まずは発信していくことの必要性を感じた。すぐの解決とならなくとも、委員である以上は伝え続けていきたい。 ・一つ一つの支援の積み重ねだと感じる。今後もできるところは協力していくことができれば。 ・今後、一つでも実践が多く上がってくれば。真正面からぶつかることは難しいこともある。だからこそ、いろんな方法を部会で協議し考えることができるはず。 ・受け入れる地域として考えた時、まちづくり協議会では地域の居場所を提供している所もあり、うまく活用できればと思う。 ・宝塚市の相談支援体制として地区割や基幹ができた。また、部会から派生して考える会もできたことは良かった。以前までは絵に描いた餅であったが、少しずつ実現してきたように感じる。 ・部会で協議する中で、相談支援事業所や精神科病院の方に話を伺う、実際に病院訪問をする機会を持つことで自身の中で少しずつ地域移行というもののイメージがついてきた。 ・長年の協議を続ける中で、課題整理を行い、実践部隊として考える会の動きにも繋がってきた。これからは如何に実践を行うかが課題であり、そこから見えてくるものも多いはず。 ・障碍（がい）福祉課としても、地域移行支援事業の促進に繋がればとの思いで、今後制度利用についてのマニュアルの作成なども検討している。 ・長年協議を継続し、病院との連携などやっと動き出したように感じる。これから一つでも多く実践を積み上げていってもらえれば。 ・地域移行支援事業の対象は精神科病院だけでなく入所施設も対象。入所施設からの地域移行支援について協議できなかったことは心残り。
4. その他	無し。

第４回けんり・くらし部会＜地域移行Ｇｒ＞　会議議事録	
日時・場所	令和５年２月６日（月）13：30～15：10／宝塚市役所　2-4 会議室
出欠者	出席者：11 名　欠席者：5 名
議題	内容（決定事項等について）
1.地域移行を考える会報告	○事務局より報告 今迄、月１回定例で「地域移行を考える会」を開催してきたが、今後は自立支援協議会に位置付けられている「事務局会議」の場で必要に応じて議論を

	行うこととする。 12 月のありまこうげんホスピタル訪問時に対象者を確認することができたが、委託相談支援事業所はありまこうげんホスピタルに連絡を入れ、面談調整を行っているケースもあると病院相談員から報告を受けている。 「地域移行を考える会」で行ってきた学ぶ機会・考える機会については、今後何らかの形で継続予定とし、現在検討中。
2.次年度に向けて意見交換	次年度から「けんり部会」となるため、委員から意見抽出を行う。 ・心の中の障碍（がい）は見えないものであるが、LGBTQ についても 1 つの障碍（がい）とみて協議することはできるのではないか。 ・ご本人の機能的な問題だけでなく、社会側の問題で継続的かつ持続的に生きづらさを抱えている人は障碍（がい）者ととらえるようになってきている。LGBTQ や難病も部会で協議できるのではないか。 ・宝塚市は「障害」表記から「障碍（がい）」表記となったが、漢字を変えるだけでは何も変わらない。 ・親として困る本人の行動がある。しかし、本人も困ることをしないとわかってもらえないという苦しみがあり、早い段階でそれに気づくことができていれば良かったと思うこともある。親が追いつめられる社会でなく、子を安心して外に出せるような社会になればいいなと思う。「困ったを発信できることはいいこと」の考えで、家族が抱え込むことなく子育てができるようになればいいと感じる。 ・宝塚市には 7 つの地区ごとに委託相談支援事業所があるが、もっと相談がしやすくなればいいと思うし、その方法を考えられないか。現状は敷居が高いように感じる。 ・以前は親の高齢化などで施設入所する方が多かったが、昨今では支援学校で寮生活をしていたが自宅に帰ることができないからと入所する方、65 歳を前に不安を感じるからと入所される方、身体障碍（がい）の方の利用が多い施設であったが、知的障碍（がい）の方の相談が増えるなど、施設に入りたいとなる意向が変わってきたように感じる。入所希望者は多いが、地域移行する方がここ数年いない状況。事業所内で意思確認を行い、計画相談の方からも本人に問うが、誰もいない。施設からの地域移行等、今後は精神障碍（がい）以外で協議もできればと感じる。 ・成年後見制度の利用相談が高齢者の親から増えているように感じる。経済的虐待など虐待の相談も増えているように感じる。 ・事業所利用を検討するにも、障碍（がい）種別や、障害支援区分によってはダメと言われることもある。また、住まいを借りるときには保証人問題に直面することもある。障碍（がい）者理解の必要性も感じる。 ・障碍（がい）を起因とした近隣トラブルを検討することはできないか。妄

	想等で大きな声や物音を出してしまう精神障碍（がい）者もいるし、認知症や知的障碍（がい）の方でも様々なトラブルがあると聞く。 ・隣人トラブルに警察介入することも多い。言動から精神障碍（がい）が疑われるケースもあり、保健所に連絡を入れることもある。警察としてできることは限られてはいるが、困ったときには遠慮なく 110 番通報してもらってよいと考えている。 ・介護保険では地域ケア会議があるが、障碍（がい）福祉にはそういったものはないのだろうか？ →地域福祉課が管轄にはなるが、地域生活支援会議というものがある。 ・各地区の近隣トラブルなど話題にできないか。今ある組織等をうまく活用していくことも考えられるのではないか。 ・こどもに対する啓発も有効ではないだろうか？ 部会長：成年後見制度利用促進基本計画というものがあり、昨年から第 2 期となっている。第 2 期には「権利擁護支援の必要性」の記載がある。権利擁護支援とは地域共生社会実現のための手段の一つ。何らかの理由で権利行使できない、権利侵害が起きているのであれば考えないといけない。「意思決定支援」や「侵害された権利の回復支援」が協議テーマになると考えられる。虐待、差別、住む権利などもそうであるが、実際にどのようなものがあるのか、本日の意見から事務局と相談もするが、新年度となり改めて委員から具体的なものを挙げていきながら協議テーマを検討できればと考える。テーマによっては、今ある他部会に振ることもあるであろうし、内容によっては共同で考えることもあると感じる。

【今後について】

次年度より「けんり部会」へと再編されることになった。「権利」という幅の広いテーマとなる為、各委員とどのようなことについて協議していくのか検討できればと考えている。

●しごと部会　活動結果報告

第１回しごと部会　会議議事録	
日時・場所	令和 4 年 5 月 19 日 13：30～15：00・市役所 3-1 会議室／Zoom
出欠者	出席者 16 名
議題	内容（決定事項等について）
1.宝塚市自立支援協議会について	・基幹相談支援センター事務局より、自立支援協議会の説明。
2.自己紹介	・委員・事務局それぞれが、所属団体の紹介・活動内容、自身の職務などを交えて自己紹介を行う。
3.共同受注窓口グッドジョブからの報告	・グッドジョブ理事長より、グッドジョブ設立の経緯、現在の状況などの報告。 ・市内の通所施設の工賃の向上を目的として、6 年前より検討を行い法人化、市から補助金を受けて運営しているため、毎回、しごと部会で報告をしている。 ・２か月ごとに定例会・運営会議を実施している。 ・現在、会員は 24 事業所、21 年度の収支は 613 万円。
4.自立支援協議会全体会の報告	・基幹相談支援センター事務局より、3 月に全体会を開催予定であったが、コロナの影響で、書面報告となったことの説明。 ・基幹相談支援センター事務局より、各部会の報告書の概要について説明。 〇しごと部会：グッドジョブの実績、オンライン開催の福祉事業所説明会の報告。 〇地域生活 Gr：精神科病院に読んでもらう小冊子を作成し、精神科病院等に配布。今年度は、冊子の配布先の検討、他市の障害理解の取り組みなどの勉強、まちづくり協議会からのヒアリングなどを予定している。 〇地域移行 Gr：精神科病院との連携を進めていく予定であったが、コロナ禍で難しかった。地域移行の促進を図るために、委託相談支援事業所を交えて、宝塚での地域移行について検討している。 〇こども部会：放課後等デイ・学校・保護者のトライアングルプロジェクトについてなどを中心に協議。
5.年間計画について	・部会長より、年間計画の説明がある。 ・事業所合同説明会は、コロナ感染症の状況を鑑みながら、対面開催とオンライン開催の同時並行で開催したい。 ・昨年度と同様に、部会前に事前課題（お題）を提示し、会議までに各所属

	団体の意見集約をして会議に参加してもらいたい。 ・会議中、専門用語など分からないことがあれば、その場でも、会議後でも、メールでも電話でも構わないので、聞くことができる部会にしたい。
6.その他質疑等	・地域移行の件数について、市として実施した件数を知りたい。 →地域移行はサービスになるため、委託相談支援事業所が中心に動くものである。件数的には伸びていないため、伸びていない課題を部会等で協議している。 →以前、関わっていた伊丹では ICCC が天神川病院に出入りして、地域移行を積極的に実施していた。宝塚に引っ越ししてきて、地域移行が進んでいないのはどうしてなのかと思っていた。ピアが福祉で働くとなると、地域移行で働くことが多いが、宝塚では聞かない。地域移行は、職員だけでも進められる。宝塚でも進めていってもらいたい。 →個別では頻回に病院への訪問や連携をとっている事例は多数あるが、組織的に進めればと思っている。長期入院される方への支援体制については課題だと感じている。

第２回しごと部会　会議議事録	
日時・場所	令和 4 年 7 月 21 日 13：30～15：00・市役所 3-1 会議室／Zoom
出欠者	出席者 13 名
議題	内容（決定事項等について）
1.共同受注窓口グッドジョブからの報告	・R4 年度の市からの補助金 462 万 9 千円、主に人件費として使用。 ・新規の屋外作業の依頼が増えている。（新規 4 件）
2.宝塚市合同福祉事業所説明会について	【今までの開催状況】 （R1 年度まで） ・7 回アピアホールで開催 ・各事業所がブースを設け、学生・家族・学校関係者・福祉支援者・行政などが興味のあるブースで説明を受ける形式。 （R2 年度） ・コロナ感染症の状況を鑑み、中止。 （R3 年度） ・Zoom の講義形式で、プログラムに沿って各事業所が説明、参加者は視聴する形式。 ・当日は、25 事業所。のべ 120 名から 150 名が参加。 【今年度の開催について】 （三役からの提案）

	・コロナ感染症の状況で中止することなく、確実に開催できる方法として、オンラインで開催したい。 ・昨年度、機材トラブルなどの課題もあったため、今年度は参加事業所のみ1か所に集まり、発信する形式で開催したい。 ・8月に作業部会を立ち上げ、準備に入りたい。作業部会メンバーは三役から打診。 （各委員からの意見） ・昨年度は、日曜日開催であったため参加できない方もいた。参加する側としては、土曜日開催の方が良いのでは。 ・開催日の周知は、できるだけ早い方が、参加者の予定が立てやすい。 （決定事項） ・オンライン開催。 ・土曜日開催で調整。 ・8月中に作業部会を発足、メンバーは三役から打診。
3.事前課題の共有	・下記事前課題について、各委員の考えを共有する。 ①あなたにとって「はたらく」とはなんですか。 ②あなたは対象者とかかわりを持つ中で、はたらく力や適性をどのように考え、評価していますか。または、仕事（雇用非雇用、条件問わず）を一緒に選択していく際に、どのようなことを大事にしていますか。 （次回課題） ・回答に対するコメントを全委員が行う。

第３回しごと部会　会議議事録	
日時・場所	令和4年9月22日13：30～15：00・市役所3-1会議室／Zoom
出欠者	出席者13名
議題	内容（決定事項等について）
1.共同受注窓口グッドジョブからの報告	・2事業所の退会があった。市内には新しい就労事業所が増えているため、参加の声掛けを行っていく予定。 ・SDGsの流れで、ホテルなどの使い捨てのアメニティを止める所も増えており、依頼が減っている。屋外作業の依頼は増えている。 ・屋外作業の依頼に対し、参加してもらえる会員事業所が増えてきている。

2.宝塚市合同福祉事業所説明会について	（日程） ・11/26（土）・12/10（土）のどちらかで開催予定。 （開催方法） ・参加事業所は、1つの会場に集まって、プレゼンを行う。 ・参加者は、YouTube ライブで視聴する。（前回のズームのセミナー形式よりハードルが下がるため、参加しやすくなる） （作業部会） ・9月～作業部会を発足させ、オンラインチャットで協議を重ねている。（事前資料・チラシ）
3.お題に対するコメント	・前回実施した、「お題」の内容を踏まえ、今後、しごと部会として検討する内容について協議する。 ・三役でテーマを決め、次月以降、具体策について協議していく。 ・協議を円滑に進めるため、作業部会も立ち上げる。 （各委員からの意見） ・昨年も協議した、社会的貢献ではない雇用のあり方として、障碍（がい）者であっても戦力として採用されるための支援について各立場で考えていく必要がある。 ・特別支援学校を卒業したあと、すぐ就職となる現状に疑問がある。特別支援学校卒業後に職業教育を受けることができる環境が必要。特別支援学校大学部のようなイメージ。 ・教育・福祉・企業など、ステージごとの支援者のつながりが大切である。加えて、支援者自身が次のステージで求められていることを知っているか。しごと部会として、情報を共有・発信していきたい。
4.西宮北事業所合同説明会について	・参加した事業所からの報告がある。 ・7月のコロナ感染症拡大の時期での開催であったため、参加者は少なかった。 ・事業所同士での交流の機会になった。

第4回しごと部会　会議議事録	
日時・場所	令和4年11月17日13：30　～15：00・市役所3-1会議室／Zoom
出欠者	出席者13名
議題	内容（決定事項等について）
1.共同受注窓口グッドジョブからの報告	・上半期の実績は集計中ではあるが、300万円位になる見込み。 ・新規の屋外作業の依頼が増えている反面、内職仕事の依頼が減っている。 ・市からの仕事の依頼が増えている。 ・会員事業所が増えるよう、新規開設事業所へPRを行っていく予定。

2.宝塚市自立支援協議会　定例会・全体会の報告	(基幹相談支援センター事務局より報告) ・令和5年度から『けんり・くらし部会』について、現行の「地域生活Grとワーキング」をくらし部会に、「地域移行Gr」をけんり部会に編成することに関する提案があり、承認された。 ・専門部会活動に関する市長報告について、委員から市長報告が復活しないのかと問い合わせがあり議案として挙がる。現状、専門部会で協議しているため、市長報告を前提としない現在の形が良いのでは。また、市の幹部である部長が全体会に出席しているため、部全体として把握、施策に活かすことは可能との提案がある。審議の結果、市長報告の必要性を感じる意見もあり、再検討課題となる。 ※各部会報告、障碍（がい）福祉基金の活用について、ガイドライン（支給決定基準）の振り返りについての報告については全体会議事録参照。（後日、市のHPでも公開予定。） （定例会・全体会へ出席した委員の感想） ・短時間で質疑の時間が短かったが、コロナ禍でも開催できたことは良かった。 ・こども部会の支援マップの取り組みなど、しごと部会としても繋がっていきたいと感じた。
3.宝塚市合同福祉事業所説明会について	（三役より開催に向けての報告） ・12/10　10：00～15：00頃で開催。 ・総合福祉センター（学習室1.2）からYouTubeライブで配信。 ・録画を行い、視聴できるように調整中。 ・チラシは、すみれ便・三役等で配布中。（1902部） ・冊子は、11/18締切りで各事業所に依頼中。
4.今年度・次年度に向けた取り組みについて	（三役より部会での取り組について提案） ・前回の会議にて、教育・福祉・企業など、ステージごとの支援者のつながりが大切であること、支援者自身が次のステージで求められていることを知ることなどをテーマとして取り組んでいくことになったが、部会とは別に作業部会を立ち上げたい。作業部会については、目的や協議内容・人選（部会委員以外の含めて）考えていきたい。 （各委員からの意見） ・部会として、協議した内容などを問題提起として、定例会・全体会などで提案することは可能か？ →基幹事務局より、可能との返答。 ・イメージしやすいように、架空の障碍（がい）をもった人物が、宝塚で生活し就労するというリアルストーリーを作って、それぞれの立場で話し合ってはどうか？

	・前回の部会の中で、特別支援学校を卒業した後の大学・専門学校のような社会に出る前の社会体験ができるような場が必要との意見があった。「スクールきると」・「エコール神戸」・手厚くサポートしてもらえるような大学や専門学校などもあるが、親の理解・知識・経済力など、まだまだハードルが高いと感じている。 ・こやの里特別支援学校では、高等部では進路に向けて職業体験を行っている。 ・委員の各立場で、実際に困っていることを出し合って協議してはどうか？ →困りごとに焦点を当てると、前向きな視点で協議できなくなるのではないか？ ⇒障碍（がい）のある架空の一人の人物を追いながら、各ステージでのあるべき姿、現実とのギャップ、専門職としての視点、困りごとも含めて考えていく。

第５回しごと部会　会議議事録	
日時・場所	令和５年１月 19 日（木）13：30～15：00・市役所 3-1 会議室／Zoom
出欠者	出席者 14 名
議題	内容（決定事項等について）
1.共同受注窓口グッドジョブからの報告	・阪神共同受注窓口連絡会にて、他市（西宮・尼崎）とコロナ禍の影響やイベントの実施状況など情報共有をおこなった。宝塚は市から補助金を受けて運営をしているが、西宮・尼崎は市からの委託事業として運営しているため、委託事業としての動きや考え方など参考になった。 ・事業所合同説明会などをきっかけに、2 事業所から問い合わせがあった。次年度からの加入に向けて調整をしている。 ・仕事としては、屋外作業などの依頼が増えている。
2.宝塚市合同福祉事業所説明会について	(三役より報告) ・12/10　10：00～15：00 頃で開催。 ・YouTube ライブで配信。 ・参加事業所：16 事業所（生活介護：3、地活・小規模作業所：3、就 B：8、就 A：2） ・視聴者数：300 名程度 ・撮影した動画は、後日配信予定。 （当日の振り返り） ・前回の Zoom より、今回の YouTube の方が視聴しやすかった。画面の切り替えもスムーズであった。 ・アドレスも２つ用意されており、上手く繋がらなかった時の対処もでき

	るようになっていたので良かった。 （作業部会の振り返り） ・チラシを作成する上で、メインターゲットなどの詰めが十分ではなかったため、チラシ案を確定させるのが難しかった。 ・作業部会メンバーの意見交換などは、オンラインチャットで行っていたが、チャットだけでは上手く進まないこともあったので、対面やオンラインでのリアル会議との併用した方がよりスムーズだと思った。 ・冊子については、事前に必要な情報の意見収集をしたため、前回より内容が良くなっていた。 ・冊子は、事業所説明会以外でも、地域の社会資源を知るための情報として有用なため、今後も毎年更新していき、必要な方に活用してもらいたい。 ・冊子の事業所情報について、事業所へ依頼する期間をもう少し長めに取り、全事業所から情報を得ることができるよう、依頼をより丁寧に行っていく必要がある。（事業所側にも、参加することのメリットをしっかりと伝えていく。） ・説明会後に、事業所への問い合わせの有無のアンケートなどの集計ができると、参加する動機に繋がるのでは。
3.今年度・次年度に向けた取り組みについて	（三役より提案） 前回の部会にて、「障碍（がい）のある架空の一人の人物を追いながら、各ステージでのあるべき姿、現実とのギャップ、専門職としての視点、困りごとも含めて考えていく」取り組みを行っていくことに決まった。その後、三役で協議し、実際に支援に困った事例などを、部会としてディスカッションしてはどうかということになった。今回は、児童・教育のステージでこやの里特別支援学校からの事例を挙げて協議をしていきたい。 →各委員からも了承を得たため、事例の協議をしていくことになる。
4.事例検討	事例 1「生徒の実態把握について、学校と保護者との間で認識のズレがある事例。」 （意見交換） ・親は家での子ども様子しか分からない、先生は学校での生徒の様子しか分からない。そのズレを、どう共有し、すり合わせていくかが大事だが、難しい。 ・実習先や進路を最終的に決めるのは、家族になることが多い。職場体験の実習も 2 回で進路を決めなければいけないため難しい。 ・家族から学校に進路先や実習先の意向を伝えても上手くマッチングしないこともある。 →学校のカリキュラム以外でも体験できる機会があれば良い。 ・進路を決め、卒業した後も、生活介護から就 B、就 B から就 A などステ

	ップアップを考える場合の判断も家族となる場合もある。 ・家族の力で進路先の選択肢が変わってくる。 →計画相談がついている場合は、一緒に進路を考えたり、事業所などを紹介することもできる。委託相談では、地域の就労事業所の特色などの問い合わせを受けることもある。こやの里特別支援学校では、毎年秋に「地区懇談会」というイベントがあり、家族・学校・行政・委託相談事業所との交流の場もある。 事例２「福祉や行政と繋がることを家族が拒む事例」 （意見交換） ・本人は福祉就労や福祉サービスの利用を望んでいても、保護者さんが拒むケースがあった。 ・卒業すると、学校では支援が途切れてしまう。 事例３「無気力な生徒・障碍（がい）受容の難しい生徒への進路指導の事例。」 （意見交換） ・無気力、障碍（がい）受容の難しさからの進路相談が大変なケースがあった。進路が未定のまま卒業する生徒もいた。学校として対応の難しさを感じた。 ・学校側の感覚として、特別支援学校のことを十分理解できていないまま、入学となる生徒・親が増えてきている。結果、不登校・ひきこもりになるケースもある。 ・在校生が卒業生から話を聴くことができるような場があれば良いのではないか。 →こやの里特別支援学校では今年度、卒業後に訓練校を経て企業に就職した卒業生２名、卒業後に就労継続Ｂ型に繋がった卒業生２名が、在校生に話をする取り組みを実施予定。また、企業主催のオンライン見学会も開催されているため、生徒には声掛けを行っている。

【今後について】

・事例を更に検討していく。

・「就労パスポート」について協議する。

●こども部会 活動結果報告

第１回こども部会　会議議事録	
日時・場所	令和４年６月１日 13：30～15：30・市役所 2-5 会議室／ZOOM
出欠者	出席者 17 名・事務局４名　欠席者　委員４名
議題	内容（決定事項等について）
自立支援協議会の組織図について	基幹相談支援センターより説明。
部会長・副部会長の承認について	昨年度の部会長の辞任の申し出により、部会長と副部会長を選任。
自己紹介	各委員の自己紹介（所属・名前・好きな事・こどもとの関わりについて）
令和３年度専門部会の報告	全体会は２回とも中止（活動結果報告書として報告） ■しごと部会 宝塚市共同受注窓口（グッドジョブ）の実績報告 福祉事業所合同説明会（ｵﾝﾗｲﾝ）開催結果、働く上での課題を今年度検討 ■けんり・くらし部会 ・地域生活 Gr：障碍（がい）に対する地域での理解についての議論。他市の取り組みや地域住民の声を聞き取っていく。 ・地域生活Ｇｒ（ﾜｰｷﾝｸﾞ）：精神科病院に入院している方に向けた小冊子を作成。精神科病院へ配布。限られた数の中でどこに配布するのか今後検討。 地域移行 Gr：長期入院されている方へのアプローチについて議論中。委託相談支援事業所にて”地域移行を考える会”が発足している。 ■こども部会 性教育の講演会に向けて・トライアングルプロジェクトの経過確認・今後支援マップの作成を進めていく。
性教育の講演会開催について	申し込み状況の確認を事務局より行う。（5/31 時点で 62 名） まん延防止等重点措置等発出された場合はオンラインのみの開催になることについては申し込み時に承諾いただいている。 開催に向けて、当日のお手伝いをして頂ける方はコミセンへご連絡を。
支援マップ作成について	今年度のメインとなる。全体の流れが分かるようなマップにしていきたい。他市の支援マップを参考に、どのようなマップが必要なのか、各委員に意見を聞き取る。※下記参照 ■課題

	誰を対象にどのようなものを作るのか？（相談の入り口／具体的な支援） ■今後の動き ・誰が誰に渡すのか。各部署で検討。 ・すでに部署で活用したり、配布されているパンフレットなど資料があれば事務局までデータか障碍（がい）福祉課のメール便でコミセン宛に。(6 月末まで)
トライアングルプロジェクトについて	6 月中に、小学校 1 年生と中学校 1 年生に資料配布する。 昨年度に続いて、困難事例・好事例の共有を継続していく。

※支援マップ作成に向けての意見

【対象者】

・障碍（がい）のあるなしに関わらず、広く渡せるもの。

・障碍（がい）受容をしているのかにもよる。

・色んな人に受け入れてもらえるもの。（検診等で渡すのであれば、やわらかい言い方がいい）

・相談のきっかけになるものなら検診で全世帯お渡しできる。

【内容】

・全体を支えられるもの。

・目的・誰に渡すのかで内容も変わる。

・障碍（がい）受容していない方にはやわらかい言い方。

・不安がある方が受け入れやすいもの。

・相談先が分かりやすいもの。

・保護者もみんなが読みやすい、難しくないものがいい。

・内容が薄くなると、障碍（がい）をもっている親としてはわかりにくい。

・発達など気になる人に渡すならしっかり説明できるものでないと受容が難しい。（問題視していない親も多い）

・保護者は資料をたくさんもらっている為、1 枚にすると破棄されることは多いと思う。（保存版等にするのか？いつでも渡しやすいものにするのか）

・障碍（がい）に対する受容の入り口には色んな情報が必要。

・学校では 1 人 1 人のケースによって対応が多様。→教員が社会資源を知れるもの。

・今ある宝塚市の冊子をどうするのか。集約するのか？どこを作り上げていくのか。ダブっているものも多く、精査していく必要有。

・子育てなんでも相談では気づきのマップを渡せたら。

・入口の気づきの分と詳しいものと 2 つ作るのか、目的を明確に。

・渡す窓口やどこで渡すものなのかによって作るものが変わってくる。

【各機関での現状・取り組み】

・健康センターでは 3 歳検診で、一般的なことを知ってもらう意味で発達障碍（がい）のリーフ

レットをお渡ししている。
・相談があった時には、「たからばこ」・「障碍（がい）者（児）福祉ハンドブック」・「子育て情報きらきら」を参考にしている。
・保健所は必要と感じて保護者から連絡が入ることが多い。
【参考】
・全員に配るのであれば赤穂市／具体的なものであれば一宮市。
・まずはリーフレット等、現状どのようなものがあるのかを把握することから。

第２回こども部会　会議議事録	
日時・場所	令和４年８月３日 13：30～15：30・市役所 2-4 会議室／ZOOM
出欠者	出席者 13 名　事務局４名　欠席者　委員８名
議題	内容（決定事項等について）
性教育の講演会について	講演会後アンケート報告（事務局より） ・参加者は家族と支援者が半数ずつ。 ・参加者の９割以上が期待通り、期待以上であった。 ・多くの方が性教育の必要性を感じてくださる内容であった。 アンケート結果を元に、様々なニーズを把握できたため、今後もこども部会で取り組めることを検討していく。
支援マップの作成について	委員アンケート報告を事務局より行い、委員で協議を行った。 部会長より ・全体を見通せるフローチャートが必要という意見が多いのではないか。 ・具体的な内容についてはこれから相談、将来の見通しが持てる物を。 ・４か月健診等、健診時に市内の人が皆見られる資料があればいいのでは。 ・宝塚市「きらきら子育てメール」について。登録無料で出産後 100 日までは毎日、１歳までは３日に１回、２歳までは１週間に１回、３歳までは月２回程度、発達の様子や１人で抱え込まずに相談をしていただくようなメールが届く。（子ども未来部　子ども家庭室　子ども家庭支援センターとＮＰＯ法人きずなメールプロジェクトが協働で配信）→協働していけることもあるのではないか。 ・他市ではアプリを活用しているところもある。（予防接種や検診、不安等知りたい内容がすぐ見られる） 《グループワーク》 ①どのような内容にするのか。 ・就学前について、ここ 10 数年で障碍（がい）受容が進んできて、就学時に障碍（がい）受容をして入学してこられる方が増えた。一方その分就学前の保護者へのフォローが少ない為、就学前にもフォローできる内容が良い。 ・１歳半・３歳健診等、言葉の出方で発達の遅れ等に気づくことが多い。

	→現在はたからばこがあるため、改めて作成するかは別。 ・保護者が情報が足りないと感じてくるのは就学後ではないか。学校としては何かのレールに乗せて案内するというより、ケースごとに対応している実態。 ・簡単に伝えて行けるもの。 ・全ての子どもに渡せるもの（気づかない人に対しての気づきにもなる） ・年代別・ステージごとに対応したもの。 ・今ある社会資源のインデックス代わりに、丸ごと活用していけるようなもの。 ・幼稚園→小学等、隙間で相談場所がガラっと変わり、情報を得る機会が少ない人もいる（就労や繋がりを求めない人）が、共通して情報が得られるもの。 ・相談をどこに問い合わせたらいいか分からない、一つ窓口があれば嬉しい。 ・障碍（がい）は 18 歳で終わるものではない、0 歳～高齢になっても活用できるものが良い。 （他の部会との連携） ・相談できる機関が載っているもの。 ②どのように配信・配布するのか ・アプリは時代に合っているが、実際に作成する際、専門家の力が必要になり現実的に可能なのか。 ・情報にたどり着けない人もいるのではないか。 →紙ベースでＱＲコードを活用するのはどうか。 ・全員に配って良いものであるが、全員に配ると、目にとまらない可能性が大きい。「不安」「ひっかかる」と思う時に情報が欲しいため、その時に渡せる方法が良い。 ・関係機関はどこでも持っておいてよいものだと思うが、お渡しできる市役所の窓口を決めておけるとわかりやすいのでは。 ③作成方法について 部会だけでは限られている為、実情を知っているグループでたたき台を作成し、部会で共有する形が良いのではないか。 今後、大きな流れのたたき台をつくるメンバーについて →部会長・事務局から声を掛けていく予定。
トライアングルプロジェクトについて	《情報共有》 ・トライアングルプロジェクト（学校、保護者、放課後等デイサービス）の中に相談支援が入っておらず、情報の取りにくさを感じている。なかなか連携が進まない。 →積極的にトライアングルプロジェクトに関わっていきたい。 ・学校では、対象となる児童の人数が多く、全ケースをカバーしていく難しさを感じている。

	・福祉サービスの更新が誕生日月のため、学校へ相談に来るタイミングがバラバラ。まずは計画相談のサービス等利用計画や通所事業所の個別支援計画を担任に目を通してもらうところからではないか。 ・放課後等デイサービスの事業所数が増え、1 つの学校で複数箇所（多ければ 10 か所以上）と関わっている。 ・支援者が集まって、今後の方針などを話していけることがベストであるが、放課後等デイと学校の対応できる時間がずれるため、時間を取りづらい。 ・放課後等デイサービスと学校の間に相談支援が間に入って学校とやり取りができたらよいのではないか。 ・学校の教育支援計画や放課後デイサービスの個別支援計画等、すべてをたからっこノートに挟んで担任や支援級担当教諭に渡すようにしている。（子どもの情報がわかるものは全て 1 つにまとめるようにしている） ・10 年前と比べ、たからっこノートの活用も進んできている。（就学前相談でお渡しをしているが、すでに持っている方も多くなってきている） ・連携会議、保護者が軸となり相談員にも声をかけてもらい実施していく方向性で動いている。とても意味があり、困りごとを共有し、対応を統一することで課題が改善したケースもある。

こども部会第１回支援マッププロジェクトチーム会議　会議議事録	
日時・場所	令和 4 年 9 月 12 日（月）13：00～14：00・市役所 3-1 会議室／Zoom
出欠者	出席者　委員 6 名・事務局 4 名　欠席者　委員 1 名
議題	内容（決定事項等について）
	支援マップを作成するにあたりプロジェクトチームを結成、話し合った。 <u>内容についての意見</u> ・「自立支援協議会こども部会」で作るという認識を持って作成。 ・保護者が不安にならないような内容。 ・「たからばこ」や子ども発達支援センターが作成した放課後等デイサービス事業所一覧などの既にあるものを活用できるよう、情報を集約。 ・発達について気になる時期はそれぞれ。年齢によって困り事の内容も変わってくる。それぞれの年代に必要な情報を集約。 ・宝塚市の相談支援体制が地区割になっているため、学校との連携が今後も進んでいくと思われる。そのことも盛り込む。 ・支援者が福祉についての理解が深められるような内容。 ・情報がなくて孤立してしまわないように、保護者同士が繋がれるような情報を。

	・先輩の保護者の意見も入れる。 対象についての意見 ・育ちの環境は様々。育ちについて不安に思った時にいつでも見ることができるよう対象者は広くする。 ・いきなり障碍（がい）と認めたくないけど、どこに相談したらいいのだろうと不安を感じている方に。 ・周りに同じような人がいないと思っていて情報が得られなかったり、誰とも繋がろうとしていない方。 ・障碍（がい）のある方、あるかもと思っている方どちらにも。 ・子ども自身が困ったときに手に取れる。 ・支援者。 配布・周知方法についての意見 ・幼稚園や保育園など、だれでも手に取れる場所に置いてほしい。 ・紙が良いのか。全員に配るのか。 ・インターネットの活用。 ・ネットで検索したときに、この支援マップがヒットするようにする。 まとめ 困り感や不安からスタートして、「療育」とは・・の説明を入れながら、障碍（がい）の有無ではなく、保護者も、子ども自身も、支援者も見ることができる。紙だけでなく、ネットで検索しても出てくるようなもの。先輩の保護者の声も入ったものにする。 10/5 の部会にて委員で共有する。

第３回こども部会　会議議事録	
日時・場所	令和 4 年 10 月 5 日 13：30～14：40・市役所　2-4 会議室／ZOOM
出欠者	出席者 17 名　事務局 3 名　　欠席者　委員 2 名　事務局 1 名
議題	内容（決定事項等について）
宝塚市自立支援協議会定例会･全体会の開催について	基幹相談支援センターより 宝塚市自立支援協議会 10/18　定例会（市役所）、11/4　全体会（西公民館）が実施される。
支援マップの作成について	9/12(月)プロジェクトチーム会議実施報告　※内容の詳細については別紙参照(宝塚市自立支援協議会こども部会第一回支援マッププロジェクトチーム会議) ＜内容と進め方についての意見＞

	・枠を決めてから内容を決めるのか、内容を決めてから削っていくのか。 ・ネットを使う人が多いため、QR コードが入った用紙を配布してサイトにアクセスするのはどうか。 ・こどもの気になる行動(やんちゃ・泣き止まない等)の項目を作成して選択できるようにするのはどうか。 ・こどもが自分で手に取れるようにすることや、園や学校の先生、関係機関も情報提供できるようにするのも大事ではないか。 ・3 歳児健診だけを視点にしない方がいいのではないか。 ・パンフレットにどういうことを伝えたいかを各部署が出し合い、模造紙に付箋で貼りジャンルごとにまとめ、その後各関係機関で詰めていくのはどうか。 ・小学校に上がるタイミングなど、生活状況が変わった時に配布されると目に留まりやすいのではないか。 ・孤独にならないようにする→保護者同士で悩みを共有することは大事ではないか。 ・情報だけが入ってそこで抱え込まないようにすることも必要。 ・実際に子育てをしている人(障碍（がい)があるかもしれない人)の声を聞くのはどうか。 ・縦軸(年齢)と横軸(医療・福祉・教育等)で考えた時に、この情報はどこの軸に当てはまるのか等検討していく必要がある。 ・放デイの活動情報等少しずつ変わっている。新しい情報をすぐにアップデートできるようにするのも大事では。 ・情報がたくさんありすぎるとしんどい保護者もいるため、保護者の方が必要な情報を選択できるようにする必要があるのでは。 ・保護者の方が疑問・不安に思う最初のとっかかりの所に焦点を絞って提示するのはどうか。 ・知りたい情報を誰もがすぐにわかるものが良いのでは。 ・入り口で難しい病名を書かれると、拒絶反応やハードルの高さを感じる。病名よりも症状を具体的に提示し、誰もが簡単に見ることができるものが良いのではないか。 ＜今後の方向性＞ まずは全体像を把握。対象年齢によっても知りたいことは様々。それぞれの機関で伝えたいことを出し合い、大きな括りが把握できる。その後、グループに分かれて内容を具体化していく。 ＜作成期間＞ 2024 年 3 月完成予定。総合支援拠点が開設されるため、こども部会独自のものを作成していく。

	＜次回＞ 各部署・施設で何を伝えたいかを検討してくる。伝えたいことを付箋に書き全体像を把握する。
トライアングルプロジェクトについて	《情報共有》 ・不登校気味の学生の放課後等デイサービスの使い方について。 学校、障碍（がい）福祉課と連携しながら毎月モニタリングを実施し、学校に行けるようになることを目的に、学校に行かなくてもデイサービスを使っていく方向となった。 ・学校の先生と放デイの先生の時間帯が合わないことが連携の課題として挙がることが多いが、まずはオンラインでつながることで、連携のきっかけ作りができた好事例があった。
その他	・たからっ子ノートの見直しは、支援マップを完成させた後に実施していく予定

第 4 回こども部会　会議議事録	
日時・場所	令和 4 年 12 月 7 日 13：30～15：00・市役所　2-4 会議室／ZOOM
出欠者	出席　委員 17 名　事務局 3 名　　欠席　委員 3 名　事務局 1 名
議題	内容（決定事項等について）
宝塚市自立支援協議会定例会・全体会の報告について	基幹相談支援センターより
トライアングルプロジェクトについて	小児科（児童精神科）を受診している児童で、系列の保育所等訪問事業を利用することになったケース。福祉と学校の連携が進んでいると感じられる事例であった。
支援マップ作成について	グループワーク（就学前／就学後／福祉・保健／ZOOM の 4 グループ） 支援マップに入れたい内容を挙げていく作業。 →どのように整理していくのかはプロジェクトメンバーで進めていく。 対象：利用されている子ども・保護者・支援者が見やすいもの。 まとめ 【就学前】 ・フローチャートのようなもの。 健診で気になる子どもに配布。相談機関がどのようなところがあるのかを

	まとめた。（健康センター、たからっ子総合相談センター→子ども発達支援センター→相談支援事業所等→児童発達…時系列的にまとめた） ・パンフレットには情報だけではなく、親の声があればいいのでは。 ・表題が大切になってくるのでは。（ちょっと気になるこどものあれこれ等） 【就学期】 ・親の困り感（学習面・対人面等）をどこに相談したらいいのかが伝わっていないのではないか。 →たからばこにも記載の通り、就学後は教育支援課となっているが、周知できていないのではないか。教育支援課に相談できる事を学校関係者にも保護者にも伝えられるように、手段として、ポスターや定期的な手紙の配布等も検討できるのでは。 ・進路に対する不安感も多い。福祉サービスとは別で不安を抱えている保護者も多い。選択肢が多様化している為、学校に情報が集約し、保護者に情報提供できるようになれば良いのではないか。 【福祉・保健】 ・保護者が入りやすいように困り事から冊子を作る。内容は子育ての困り感から接し方の工夫や、変わらない情報を載せる。また、相談機関や社会資源（フォーマル・インフォーマル）を 1 枚でまとめる。資源の最新の情報が得られるように QR コードを張り付けて宝塚市のホームページの各情報などに繋げられたら良いのではないか。 →こども部会で管理する負担や費用も抑えられる。 ・全員に配布となると時期は 0 歳なのか、3 歳なのか…協議が必要では。 【ZOOM】 ・保護者の立場 　同じ立場での共感、親の会・サロン等インフォーマル情報の掲載 　情報を知らない保護者に対して、社会資源自体を示せるもの。 ・教育の立場 　学校や保護者からの相談は具体的なものが多い。一緒に伴走してもらえる機関を載せてほしい。 　低年齢での情報提供→手帳や診断書に付随する検査機関・医療機関 ・福祉の立場 　学校との連携はこまめにあるが、　一緒に児童の事の理解を深めていけるような内容になれば。 12/22　プロジェクトチーム会議を開催。 より具体的にどのような内容にしていくかを深めていく。

第２回こども部会プロジェクトチーム会議　議事録	
日時・場所	令和４年 12 月 22 日 16：00～17：00・市役所 3-1 会議室／ZOOM
出欠者	出席　委員５名　事務局３名　　欠席　委員２名
議題	内容（決定事項等について）
支援マップ作成について	■部会長より 第３回こども部会の GW にて出た意見から支援マップのイメージ・内容をまとめた。 ・全体を概観できるマップ（一宮市のイメージ）は必要。 ・困り事、診断は受けていないが不安がある等、どこに向かっていきたいのか等、先がわかるフローチャート。 →その先にどのような選択肢があるのかイメージが沸くもの ・親同士等、インフォーマルで相談ができるところ。 ・SST やアンガーマネジメントを受けられる専門機関などの情報。 ・診断前・診断後・ずっと関わってもらえる→伴走してくれる相談機関の情報。 ・どのような相談ができるかのイメージが湧くもの。 ・年齢に応じた選択肢、18 歳以降、学校卒業後の選択肢。 ■内容について 部会で出ていた意見をまとめながら、情報量など見極めて決めていく。 深く探りたいと思えば探れるよう、ホームページに飛ぶように（QR コード）することも大切。 診断がつくかわからない未就学児との関わりでは、保護者もモヤモヤしている事が多い。そこで、学校卒業の先までの内容、情報量が多いと、保護者がしんどくならないかの心配がある。 →一宮市のマップでは「出生～5 歳」「6 歳～」と裏表で工夫されているため、参考にしたい。 5～6 年前は就学前に利用できる選択肢が少なかったが、今は選択肢が多い。良いことではあるが、同時に母親の孤立化と比例しているように感じる。子どもに対しての支援はたくさんあるが、保護者に対しての支援の少なさを感じており、保護者に対して「一人じゃないよ」というメッセージも入れていきたい。 →親の会の他にも小さなサークルはあるが、どこまで載せるのかの精査は必要。 ■情報量について なるべく冊子は薄くして、QR コードを活用し、内容の更新は、各機関で行ってもらえるメリットもある。

	相談機関等の情報に+α、ちょっと気になる不安がちょっと解消される温かいもの。（親の声を少し入れる等の工夫をする） →佐世保市等が使用している様式で「障碍（がい）」「発達障碍（がい）」等の文言を表に出さないものが良いのではないかと意見が出ていた。 診断を受ける年齢が早まっており、すぐ療育に繋がっていくケースが増えている。横のつながりの大切さもわからないまま、3歳児健診時点ですでに療育に繋がっている人も多い。あまり分厚いものは手に取りにくいし、薄い冊子のほうが渡しやすい。 どの時点でも、困った時にパッと手に取りやすいもの。一覧のものと、相談したい時に寄り添えるものがあれば良いのではないか。 一覧（一宮市参考）とフローチャートや温かみのあるもの（佐世保市参考）のどちらの強みも活かせるものができたらいいなと思う。 教育現場でも、就学時にすでに療育に繋がり、加配が付いている児童が多く、良い状態で就学を迎えていると感じる一方、親の心配も大きくなっている。→心配事に対して、ちょっとした見通しや工夫で頑張れることがあると示せる物、困った時に後回しにしないで参考にできる物。 ■決定事項 ◎就学前・就学後（診断前・後）に分けた一覧を作成（一宮市のマップを参考にする）※まずはここから取り掛かる 〇ページ数はなるべく少ないもの（他のHP等に飛べる工夫） 〇保護者が相談できる場所・機関を掲載 〇フローチャートで困り事から相談先に繋がるもの 〇年代、医療・福祉・教育・保護者など、カテゴリー分けに見やすいもの

第5回こども部会　会議議事録	
日時・場所	令和5年2月1日13：30～15：00・市役所2-4会議室／ZOOM
出欠者	出席　委員19名・事務局4名　　欠席　委員1名
議題	内容（決定事項等について）
「たからっ子総合相談センターあのね」について	子ども総合相談課より説明 〇設置を努力義務とされている、子ども家庭総合支援拠点として、教育・福祉・保健との連携ができる新たな窓口が2/13に開所。 ☆総合相談窓口の設置（第二庁舎）　気軽に相談できる窓口 ☆相談体制の構築　　つながる相談窓口、専門的対応。 現状の相談体制では、個人情報のこともあり、年齢・分野で支援が途切れてしまう。 特に就学後の子どもの発達相談をできる場がなく、問題が起きてからの事

	後対応になることが多い。→宝塚市の子ども条例を改正し、9 つの課で情報共有システムを導入できるようになる。 〇子ども総合相談課では ・総合相談機能：なんでも、どなたでも、どこに相談したら良いかわからない場合にも相談できる。妊娠届の受付も予定しており、妊婦も含まれていく。 ・発達相談機能：困りごとの背景を分析していく。多職種でのチーム支援。グレーゾーンの子どもへの支援。予防的なアプローチができる。 〇市民へのメリット ・相談先に迷わなくなる。 ・一度話をした内容をもう一度聞かれることも少なくなる ・発達の特性が困りごとの背景にある場合、専門相談を受けられる。 キッズスペースもあり、子ども連れでも相談できる。 〇障碍（がい）福祉課より：児童発達支援や放課後等デイサービスの利用等、人数が増えているが保護者も療育を受けるようにすすめられたからと申請するという方も多い。支給決定をしても、利用がなく繋がらなかったという事例もあるため、保護者の受け入れが気になる場合はあのねを案内するなどしてほしい。
質疑応答	・リーフレットはどこに設置される予定か。 →子どもの所属機関（学校・幼稚園・保育所）の他、児童館や子育て世代が利用する施設を予定している。また、ホームページにも 2/13 以降にページを開設。リーフレットではないが、子育て世代応援給付事業の郵送物に開設のお知らせを同封した。 ・発達検査が受けられる、医師の相談ができるとの事だが、診断を受けられるのか。→診断は受けられない。診断が必要な場合は医療機関を紹介していく。発達検査を受ける目的は「福祉サービス受給のため」としての検査ではない。子どもの得意・不得意を把握することを目的。 ・相談窓口の位置づけはどうなるのか。→対象としては幅広い。「あのね」が全ての入り口になるということでもないし、「あのね」に行かなければ次に進めないということでもない。既存窓口も活用して頂ければ。
支援マップ作成について	グループワーク（就学前／就学後／福祉・保健／ZOOM の 4 グループ） 他市で作成されている支援マップをベースとして作成していく。 こども部会では 0～20 歳くらいまでを作成。必要であれば他の部会にも繋げていけたら。本日出来上がったものをプロジェクトチームで仕上げ、来年度に具体化していく。「利用者目線」で考えて行く。 【就学前】 どの分野が、どのタイミングで関わるのか話し合った。

	多岐にわたる期間、付随する相談機関にもつながるように考えた。 【就学後】 特別支援学級の障碍（がい）種別、通級指導の記載、障碍（がい）種別での支援学校の記載。教育支援課や学校教育課、育成会の青少年課など行政窓口も記載。 【福祉・保健】 たからばこは、出生前（母子手帳受け取り時）に受け取れる。 親の会についてもどう記載していくのか検討が必要。 【ZOOM】 特別支援学校や、相談機関、医療機関について記載。親の会をどこに記載していくのか検討していきたい。 出産後の悩みについて支援できる機関、就労に関してはハローワークの専門援助部門などを記載。

第3回こども部会プロジェクトチーム会議　議事録	
日時・場所	令和5年2月27日10：00～12：00・市役所基幹会議室／ZOOM
出欠者	出席　委員5名・事務局4名　　欠席　委員2名
議題	内容（決定事項等について）
支援マップ作成について	第 5 回の部会で行ったグループワークでの意見をもとに内容の整理を行った。 整理した内容を表にし、次回の部会で再度検討していく。

【今後について】

① 次回の部会は次年度6月。それまでにプロジェクトチーム会議を開催予定。

② 継続してトライアングルプロジェクトの事例共有

③ 新たなニーズの把握